



公益財団法人 日本ハンドボール協会 編
令和元年12月1日発行(毎月1回1日発行) 通巻597号

ハンドボール

12

DEC.2019
No.597



- 男子日本代表第2回欧州遠征
- 高松宮記念杯男子62回女子55回全日本学生選手権
- 第17回日本車椅子ハンドボール競技大会



挑戦を続けた日々が、大舞台へと届くように。
諦めない気持ちと、熱い感動を、世界中へ届けるために。

ヤマト運輸はジャパンハンドボールオフィシャルパートナーです。



ヤマトホールディングスは、
東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナーとして、
東京2020オリンピック競技大会を応援しています。

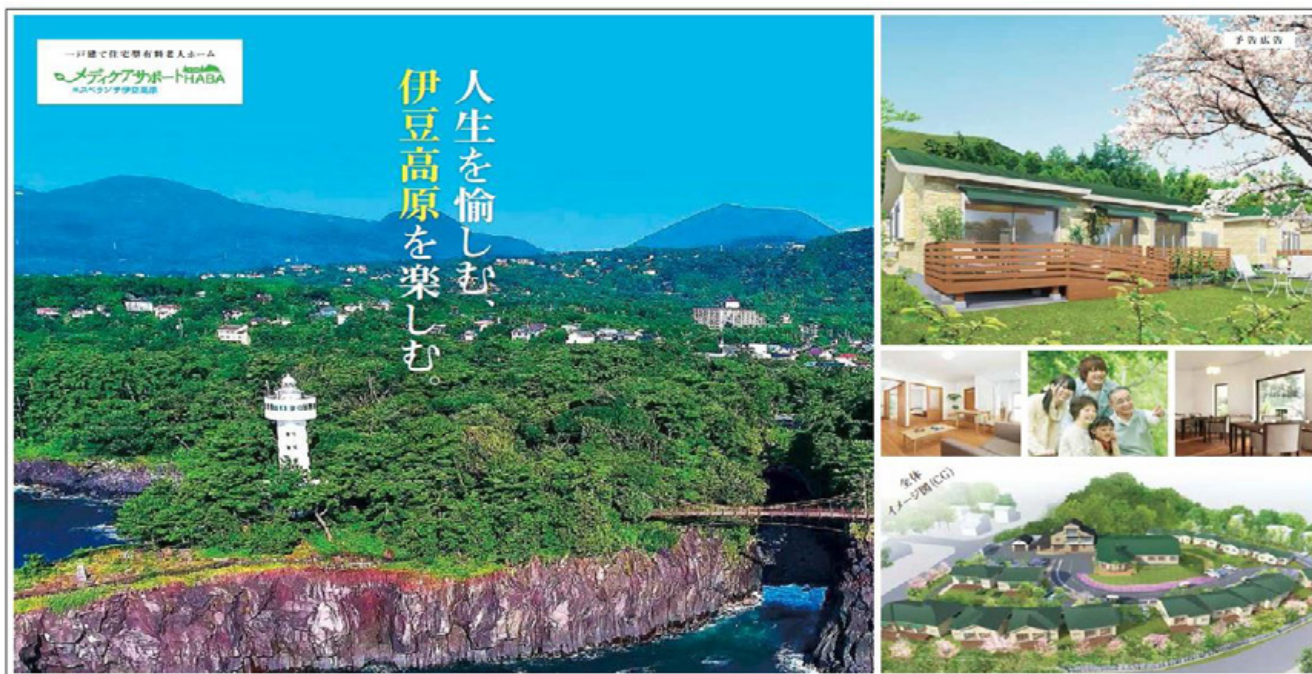


東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナー
ヤマト運輸はヤマトホールディングスのグループ会社です



プレミアム・リゾートという選択

一戸建て住宅型有料老人ホーム



メディケアサポートHABA

2017年12月伊豆高原にオープン

12/1(金)より予約申し込み開始!

☎ 0557-51-7887 (担当 土屋・はば)

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ)シリーズや、社有物件も展開! 待望の2020年『東京オリンピック』まで、いよいよカウントダウンが始まりました。弊社も選手達と共に邁進していきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



私達、株式会社ユリカコーポレーションは女子ハンドボールを応援しています!!

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL : 03-3525-8986 / FAX : 03-5295-8188 <http://yurika-co.jp/>





あたたかい空へ。あたらしい空へ。

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

Eat Well, Live Well.

Aji
AJINOMOTO.

Behind Your "Best"



車いすバスケットボール
鳥海 連志 選手

バドミントン
松友 美佐紀 選手



バドミントン
高橋 礼華 選手

競泳
瀬戸 大也 選手

ハンドボール
原 希美 選手
ハンドボール
永田 しおり 選手
ハンドボール
横嶋 彩 選手

空手
喜友名 諒 選手

5人制サッカー
加藤 健人 選手
5人制サッカー
黒田 智成 選手

パラ水泳
一ノ瀬 メイ 選手
パラ水泳
木村 敬一 選手
パラ水泳
山田 拓朗 選手

©The Asahi Shimbun via Getty Images
©Atsushi Tomura/Getty Images for Tokyo 2020
©Junya Nishigawa - PARAPHOTO/Getty Images
©Ian MacNicol/Getty Images ©JBFA ©X-1

**味の素(株)は「勝ち飯®」メニューを選手に提供することで、
東京2020オリンピック・パラリンピック日本代表選手団を応援しています。**

＼ がんばる人のチカラになるごはん！

勝ち飯®

オリンピック・パラリンピック日本代表選手団が、世界で勝つために。

味の素(株)は、独自の栄養プログラム「勝ち飯®」メニューで、
彼らのカラダづくりを支えています。



東京2020オフィシャルパートナー
(調味料、乾燥スープ、アミノ酸ベース顆粒、冷凍食品)



【表紙の写真】
高松宮記念杯男子62回女子55回全日本学生選手権(写真提供:スポーツイベント社)

CONTENTS

男子日本代表 第2回欧州遠征

- 07 メンバーリスト
- 09 日本代表チーム 報告書——日本代表監督・ダグル シグルドソン
- 12 日本代表欧州遠征2019(フィンランド・ノルウェー)報告——日本代表コーチ・舍利弗 学
- 16 2019男子ナショナルチーム フィンランド・ノルウェー遠征帯同メディカル報告
——ドクター・沖本信和 トレーナー・飯田純一郎、事柴壮武

高松宮杯男子62回女子55回全日本学生ハンドボール選手権

- 18 男女結果
- 19 総評——東北学生ハンドボール連盟理事一同
- 21 男子優勝：筑波大学——主将・山田暁央
- 22 女子優勝：大阪体育大学——秋山静香
- 23 男女勝ち上がり表

24 2020東京オリンピック出場枠12カ国【男子】

第17回日本車椅子ハンドボール競技大会

- 25 総評——日本車椅子ハンドボール連盟・江川達郎、古川沙夜

27 日韓スポーツ交流2019男女

- 28 男女メンバーリスト
- 29 総評——チームリーダー・尾石智洋
男子報告——監督・ネメシュ ローランド
女子報告——監督・古橋幹夫
- 31 日韓交流サポートスタッフ発掘育成運営専門委員・鈴木康信

32 【熊本通信】2019女子ハンドボール世界選手権大会いよいよ開幕！

33 2019年度第2回理事会報告

がんばれハンドボール 20万人会「サポート会員」10月入会・継続会員

【埼玉】小澤隆志、小澤智子 【東京】田島雅史、東尾吉信、堀井かずみ、荒川晶夫、荒川留美 【神奈川】種村明彦、三輪修大 【静岡】細澤 覚
【愛知】中島 猛 【三重】橋本行弘、橋本由紀子 【大阪】伊藤慎吾、中塚富佐子

次号1月号(No.598)は1月1日発行予定です。



男子日本代表 第2回欧州遠征

(フィンランド、ノルウェー/2019年10月15日~10月28日)

スタッフ

役職	氏名	フリガナ	所属
ヘッドコーチ	Dagur Sigurdsson	ダグル シグルドソン	(公財)日本ハンドボール協会
アシスタントコーチ	舍利弗 学	トドロキ マナブ	(公財)日本ハンドボール協会
GK コーチ	Antoni Parecki	アントニ パレツキ	(公財)日本ハンドボール協会
GK コーチ	北林 健治	キタバヤシ ケンジ	(公財)日本ハンドボール協会 都城工業高等学校
ドクター	沖本 信和	オキモト ノブカズ	(公財)日本ハンドボール協会 沖本クリニック
トレーナー	飯田 純一郎	イイダ ジュンイチロウ	(公財)日本ハンドボール協会 J・フロントライン
トレーナー	事柴 壮武	コトシバ ソウム	(公財)日本ハンドボール協会 広島大学

選手

通し番号	氏名	フリガナ	所属	生年月日	身長	出身校
1	笠原 謙哉	カサハラ ケンヤ	トヨタ車体	1988.05.15	197	東海大学
2	久保 侑生	クボ ユウキ	大同特殊鋼	1988.05.24	186	筑波大学
3	信太 弘樹	シダ ヒロキ	大崎電気	1989.06.24	188	日本体育大学
4	土井レミイ杏利	ドイ レミイ アンリ	大崎電気	1989.09.28	181	日本体育大学
5	渡部 仁	ワタナベ ジン	トヨタ車体	1990.01.17	183	日本大学
6	岩下 祐太	イワシタ ユウタ	トヨタ紡織九州	1991.06.21	183	早稲田大学
7	柴山 裕貴博	シバヤマ ユキヒロ	大崎電気	1992.05.21	177	大阪体育大学
8	酒井 翔一郎	サカイ ショウイチロウ	トヨタ紡織九州	1992.08.15	188	大阪経済大学
9	東江 雄斗	アガリエ ユウト	大同特殊鋼	1993.07.06	183	早稲田大学
10	岡元 竜生	オカモト リュウセイ	トヨタ車体	1993.11.01	192	中部大学
11	杉岡 尚樹	スギオカ ナオキ	トヨタ車体	1994.04.18	177	中央大学
12	吉野 樹	ヨシノ タツキ	トヨタ車体	1994.07.13	182	明治大学
13	玉川 裕康	タマカワ ヒロヤス	大崎電気	1995.04.27	197	国土舘大学
14	坂井 幹	サカイ モトキ	豊田合成	1995.11.10	191	筑波大学
15	徳田 新之介	トクダ シンノスケ	豊田合成	1995.12.06	178	筑波大学
16	北詰 明未	キタヅメ アスミ	トヨタ車体	1996.10.22	186	中央大学
17	徳田 廉之介	トクダ レンノスケ	Tarnów (POL)	1998.05.15	180	岩国工業高等学校
18	部井久アダム勇樹	ベイグ アダム ユウキ	SARAN (FRA)	1999.04.21	194	博多高等学校

男子日本代表 第2回欧州遠征(フィンランド、ノルウェー)



© niklas montonen



© niklas montonen



© niklas montonen



The Analysis report of the Men's National team (Training camp in Finland and Norway / October)



Introduction

Recently we can feel that it is getting more and more difficult to find teams in Europe to play, as the European club and national competitions are getting bigger and bigger. That is way we choose to use our good connection in Finland and visit them again. We went to the "Kisakallio training center", very good facilities for training, team-building, meetings etc. Team members met up in Tokyo and had a movement training session with Mr. Katsura performance coach and keeping up our mental training program with Mr. Tachiya mental coach from JISS. We choose 19 players but unfortunately Motoki (Osaki) had to skip this camp because of injury, but Rennosuke Tokuda had his first training camp with the first team as he joined us from Poland. Adam also came directly from France. I was glad to see our doctor joining us as well our physiotherapists (trainers). We had time to fresh up on our tactics and try few new things that will help us when we meet again in December. The training sessions were combination of handball team play, plyometrics and interval running. We also used a lot of time for our three goalkeepers as we had both Kenji and Antek to focus on the GK. We must try to press the tempo of our players up, as the European teams are quick and strong.

Game No.1, October,19

JAPAN 28(12-15, 16-11)26 Finland

Our first game was against Finland. They have now a very experienced coach in Ola Lindgren (SWE).

日本代表チーム 報告書 (フィンランド・ノルウェー遠征 /10月)

日本代表 監督

ダグル・シグルドソン

はじめに

昨今、ヨーロッパのクラブチームや代表チームの試合が過密日程になり、ヨーロッパ勢とマッチメイクするのが日に日に難しくなっています。今回、我々が持っているコネクションを使用して、フィンランド代表との試合を決めました。滞在先は「キサカリオ」トレーニングセンターと呼ばれ、トレーニング施設やミーティング、チームビルディングの為の施設が充実している場所でした。チームは東京で集合し、桂パフォーマンスコーチのもとフィジカルトレーニング（動き作り）を実施、その後、立谷メンタルコーチ（国立スポーツ科学センター）の指導により、メンタルトレーニングを引き続いて実施しました。今回 19 名の選手を選出しましたが、残念なことに元木選手が怪我により参加を見合わせるようになりました。しかし、徳田廉之介選手が代表チームに初招集となり、ポーランドより駆けつけました。アダム選手もフランスから直接ヨーロッパにて合流しました。今回もトレーナー 2 名とともにチームドクターが帯同できたことは嬉しいことでした。我々はまずチーム戦術に慣れるために時間を費やしました。そして、12 月にもう一度再集合した際、有用となり得る幾つかの新しい試みもトライしました。トレーニングセッションはハンドボールトレーニングとプライオメトリクスまたはインターバルランニングを組み合わせたものを実施しました。また、3 人の GK に対しては、GK コーチ陣を中心に多くの GK トレーニングの時間を設けました。我々はヨーロッパ勢が行っているように、速く且つ強く、テンポを更に上げていかなければいけません。

【彗星ジャパン欧州遠征 第1戦 10月19日】

日本代表 28(12-15, 16-11)26 フィンランド代表

ヨーロッパ遠征第1戦目の相手はフィンランド代表とでした。フィンランド代表は現在、非常に経験値の高いコーチである Ola Lindgren（スウェーデン出身）氏に率いられています。我々は良い形でスタートを切りまし

We started a little bit better than Finland but they came back and took the lead before half time with 3 goals. This was mainly due to many technical errors on our side. This meant Finland got easy fast break goals.

We could change this in the second half and step-by-step we got the game even again, before taking the lead just before the end and winning with two goals. Showing a mental strength turning the game around was a positive thing for us.

Game No.2, October,20

JAPAN 29(12-16, 17-11)27 Finland

Game number two was also against Finland. Much better game from both side and we did not make as many technical mistakes, but we did not shoot good enough and that is why the Finnish GK had a fantastic match. Again we went behind at halftime 4 goals. Same thing happened, because we now believe that we can turn games around. Again we could win up the 4 goals and win the game. Again good mental strength and a much better game.

Game No.3, October,24

JAPAN 26(14-10, 12-16)26 Norway_B

Now we moved to Norway to play against the B-team from Norway. (B-teams from the best nations can be extremely strong, as we have tried against Sweden in June.) This is a good opportunity for us to play against some of Europe's best talents. This team also had experienced players like Espen Lie Hansen who has 160 games for Norway and Joakim Hykkerud who played for a long time in the Bundesliga for Hannover-Burgdorf and has played 80 games for Norway.

Our third game against Norway B was a great match. Very close and exiting, we were mostly 1-2 goals up in the first half. We changed our game plan a little bit before this match because Norway play very good fast breaks and quick start so we stopped change defense/offense. Like this we had a great balance and good tracking back. Our best game in

たが、その後、フィンランド代表が持ち返し、彼らの3点リードでハーフタイムを迎えました。これらの原因は主に我々のテクニカルエラーでした。つまり、フィンランド代表に簡単に速攻でのゴールを許してしまいました。後半に入るとこれらを改善し、徐々に点差を縮めていきました。試合終盤にはリードを奪い、最終的には2点差の勝利となりました。メンタル面の強さを見せ、ゲームを逆転勝ちしたことは、とてもポジティブな内容でした。

【彗星ジャパン欧州遠征 第2戦 10月20日】

日本代表 29(12-16, 17-11)27 フィンランド代表

ヨーロッパ遠征第2戦目。フィンランド代表。1戦目と比較すると両チームにとって内容も良くなり、我々のテクニカルミスも減りました。しかし、充分で良いシュートが打てず、フィンランド代表 GK は素晴らしいセーブを連発しました。ハーフタイムには4点差のビハインドで突入。1戦目と同様に我々は逆転できると信じていました。そして、4点差を追いつき、再び勝利を収めることができました。メンタルの強みを見せ、より良い試合運びができました。

【彗星ジャパン欧州遠征 第3戦 10月24日】

日本代表 26(14-10, 12-16)26 ノルウェー代表B

その後、我々はノルウェーに移動し、ノルウェー代表Bと親善試合をしました。(6月に対戦したスウェーデン代表Bと同様に、世界の強豪国のB代表チームは非常に強いチームです。)ヨーロッパの好選手と対戦することは我々にとって大変良い機会です。今回ノルウェー代表Bは、ノルウェー代表として160試合を経験している Espen Lie Hansen 選手や、長い間ドイツ・ブンデスリーガのハノーファーで活躍し、ノルウェー代表としても80試合出場している Joakim Hykkerud 選手などを擁していました。

ヨーロッパ遠征第3戦目。ノルウェー代表B戦は素晴らしい試合でした。とても均衡したエキサイティングなゲーム内容でした。前半戦、ほとんどの時間帯で我々は1~2点リードを保っていました。我々は試合前にゲームプランを少し変更しました。何故ならばノルウェー代表はとても速い速攻とクイックスタートを擁しており、我々はオフェンスとディフェンスの両面で対応することを目指しました。このように我々は攻守で良いバランス

this camp and we should have won but a draw was a fair result in the end. After this we could see that we have not lost for 7 games in a row.

Game No.4, October,26

JAPAN 28(14-13, 14-20)33 Norway_B

Sadly that happened in our forth game (Norway B). A good first half and everything was equal but in the second half our game fell apart. In attack we lost concentration both in our passing game and shooting form good opportunities, Norway could do what they do best, run. They went 4-5 goals up and we did not have the power to fight back. A little bit disappointing end to a very good training camp.

Conclusion

I'm looking foward to going to Tokyo in November and see the players in action with their club teams (All Japan Championship). It will help me pick the squad for our December camp and preparation for Asian Championship in Kuwait. Our aim is to make the top 4 even we got a very difficult group. We will train hard in December and January and I'm sure this will also help us for next summers Olympic games.

Head coach of the Men's national team, Dagur Sigurdsson

を保ちつつ、攻撃からの戻りについても良いパフォーマンスを見せることができました。この遠征を通じてベストの試合でした。我々は勝利をつかめる試合でしたが、最終のスコアは引き分けとなりました。我々はこの試合を終えて、7試合連続で負けなし。勝利若しくは引分けが続く状況でした。

【彗星ジャパン欧州遠征 第4戦 10月26日】

日本代表 28(14-13, 14-20)33 ノルウェー代表B

ヨーロッパ遠征第4戦目は、残念な試合となりました。(ノルウェー代表B)

前半戦、とても良い内容で試合は均衡していました。しかし、後半になり我々のゲームは崩れてしまいました。攻撃では、パスとシュートの両方で集中力を欠いてしまい、ノルウェー代表が得意とする速攻を伴う状況が出来てしまいました。ノルウェー代表は4~5点リードし、我々は盛り返すだけの力を残していませんでした。大変良いキャンプを過ごしていただけに、少し残念な最終戦となりました。

結び

私は11月に東京で日本選手権を視察することを楽しみにしています。それを、アジア選手権(クウェート)に向けて12月からスタートする強化合宿のメンバー選考の一助にしたいと思います。厳しいグループに入りましたが、我々の目標はベスト4に入ることです。我々は12月と1月にハードにトレーニングに励みます。またそれらは、来夏に開催されるオリンピックに向けても有益となるでしょう。(訳: 舎利弗学)

 **OSAKI**



mind

豊かな明日を切り開く、大崎マインド。

限られた資源だから、有意義に使っていききたい。

命あるものたちが共存する地球だから、

快適な環境を守っていききたい。

計測・制御の専門メーカーとして時代をリードする大崎は、

ユニークな発想と探究心で省エネ、省力化機器など、

つねに技術革新をこころがけています。

大崎電気工業株式会社

本社 〒141-8646 東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア TEL.(03)3443-7171(代表)



日本代表欧州遠征2019(フィンランド・ノルウェー)報告

日本代表コーチ 舍利弗 学

日本代表(彗星ジャパン)は、欧州各国が国内リーグを中断し、代表選手召集・代表活動が可能になる「インターナショナルウィーク」を利用して、10月16日から10月26日の日程で「欧州遠征(フィンランド・ノルウェー)」を実施しました。

チームは10月15日に味の素ナショナルトレーニングセンターに集合。メディカルスタッフ(ドクター・トレーナー)によるコンディションについてのヒアリング、メディカルチェックを実施。その後、チームミーティングを経て、桂パフォーマンスコーチによるフィジカルトレーニング、立谷メンタルコーチ(国立スポーツ科学センター)によるメンタルトレーニングを実施し、翌日16日に成田空港よりフィンランドに向かいました。

フィンランドでは、フィンランドのナショナルトレーニングセンターを使用して強化合宿を実施。充実した施設の中、強化合宿を実施することができました。

遠征中の国際親善試合については合計4試合(対フィンランド代表2試合、対ノルウェーB代表2試合)を計画・実施しました。レギュラーシーズン中であり、現在トップフィットの状態に近い欧州勢相手に、アウェイの地で貴重な経験・勝利を掴むことができました。

以下、欧州遠征における親善試合の内容(戦評)についてご報告いたします。

【彗星ジャパン欧州遠征 第1戦 10月19日】

日本代表 28 (12 - 15、16 - 11) 26 フィンランド代表

得点者：柴山1点、杉岡1点、北詰2点、徳田(新)5点、渡部3点、土井1点、信太1点、岡元1点、吉野5点、東江8点

欧州遠征初戦の相手は、過去にスウェーデン代表監督やIFK Kristianstad監督を歴任し、今年6月に監督に就任したOla Lindgren氏(現在はエジプト「Al Ahly」の監督も兼務)が率いるフィンランド代表となった。

日本はGKに坂井、東江をトップDF、玉川をセンターDF、2枚目DFに酒井と吉野、1枚目DFに渡部と土井を配置した「5-1DF」でゲームスタート。攻撃はプレーメーカーに東江、徳田と吉野がバックコート、渡部と土井がサイド、ポストに酒井の布陣。

試合開始当初、ボールがうまく手に馴染まず、両チームともミスの多い立ち上がりとなる。

攻撃のミスから速攻を仕掛けられ、組織的なバックチェックが出来ずに7mTを相手に与えてしまい、先制を許す形となった。攻撃では良い形を作るも相手GKの好セーブもあり、なかなか得点チャンスを生かせない時間が続くが、試合開始4分、コンビネーションから徳田(新)が今遠征チーム初得点を挙げる。その後、渡部、東江が得点を重ねるも、ミスからの速攻等で失点を喫し、なかなかリズムに乗れない時間が続くが、好守から吉野の速攻などで得点を重ね、8対5となった時点でフィンランドがタイムアウトを請求。タイムアウト終了後、日本はメンバーを変更するも、新たに投入されたメンバーがリズムを掴めずに徐々に点数を縮められる。更にはGKも相手シュートに対応出来ず、遂には逆転を許してしまい、12対15で前半を終了する。

ハーフタイムでは、チームの規律・規範について再度確認。トレーニングをしてきた内容について共通理解を図った。

後半、日本はGK岩下を投入してスタート。すると岩下の好セーブから東江の速攻、渡部、北詰の個人技などでリズムを取り戻していき、後半13分には同点に追いつく。そこでフィンランドはタイムアウトを請求。その後

は一進一退の攻防が続くが、吉野のクイックスタートからの速攻などで巻き返し相手に流れを渡さずに、後半20分過ぎからの4連取で逆転する。DFシステムを6-0DFに変えた日本は攻守に安定感が増し、最後は吉野が駄目押しゴールを決めて28対26の2点差で遠征1戦目を勝利で終えた。

フィンランド到着後間もなく、時差調整の問題等々、本来のコンディションとは言い難い中でヨーロッパ勢に対する勝利となったことは価値あることだが、攻守ともに課題が見えた試合内容でもあった。翌日も同じフィンランド代表との試合が予定されているので、次の試合まで残された時間を有効に活用して更なる飛躍を狙いたい。

【彗星ジャパン欧州遠征 第2戦 10月20日】

日本代表 29 (12 - 16、17 - 11) 27 フィンランド代表

得点者:柴山2点、杉岡1点、北詰1点、部井久3点、徳田(新)3点、渡部1点、土井1点、玉川1点、岡元1点、吉野4点、東江11点

対フィンランド代表2戦目。昨日の試合で抽出された課題を午前中のミーティングで確認し、改善策を意思統一して臨んだ第2戦。日本はGKに岩下を起用。その他は昨日同様に東江をトップDF、玉川をセンターDF、2枚目DFに酒井と吉野、1枚目DFに渡部と土井を配置した「5-1DF」でゲームスタート。攻撃もプレーメーカーに東江、徳田と吉野がバックコート、渡部と土井がサイド、ポストに酒井と、昨日と同様の布陣。

試合開始、岩下の好セーブから試合スタート。先制点を許すものの、すぐにクイックスタートから吉野の個人技で取り返す。試合前にミーティングで確認したポイントを意識しつつ、リズム良く効果的に攻撃を展開するも、相手GKの好セーブによりなかなか連続得点に結びつかない。前半13分過ぎ、土井の速攻、東江の個人技で7対5の2点差を付けるものの、直後に攻守のミスも重なり3連取され7対8と逆転を許す。引き離されたくない日本は、徳田のディスタンスシュート、北詰の速攻で9対8と再度逆転。その後、一進一退の攻防が続くが、後半17分過ぎに単調な攻撃からの速攻で4連取されてしまう。日本もなんとか反撃に出ようとするが、良い形で多くのチャンスを作るもののフィンランドGKの好セーブに合い、結局12対16の4点ビハインドで前半を終える。

ハーフタイムでは、前半のパフォーマンスの確認と修正、シュートチャンス時の留意点等について再度意思統一を図り後半に臨む。

後半開始直後、渡部の個人技で得た7mTのチャンスを東江が落ち着いて決め、幸先の良いスタートを切る。日本は後半スタートからDFシステムを「6-0DF」に変える。これが奏功し、DFとの連携からGK岩下が好セーブを連発。また、フィンランドが一人退場している時間も効果的に得点を重ね、部井久、杉岡、柴山らが落ち着いて得点を重ねて後半12分には21対20と逆転に成功する。一時はフィンランドの反撃に遭い、逆転を許すも柴山や渡部の個人技で得た7mTのチャンスを東江が決めて再度逆転。フィンランド代表の司令塔No.22 Benny Bromanの巧みなリードでフィンランドも多彩な攻撃を仕掛けてくるが、ここでも岩下が味方DFとの連携から好セーブを連発して反撃を許さない。最後はフリースローから東江が個人技で得点して勝負あり。この日、オフセンスでは東江が11得点。GKの岩下が後半だけで50%のセーブ率(1試合で37%)を残すなど、2人の活躍が際立った試合となった。

昨日に引き続き連戦で、また時差の関係もあり若干疲労の残る中での試合となったが、試合中のパフォーマンスもチームミーティングで話した内容を踏襲し、昨日の試合よりも格段に良いものであった。また、選手を入れ替えながらもアウェイの地でヨーロッパ勢に2連勝出来た事は、選手個々の自信に繋がる結果となった。チームはこのままフィンランドナショナルトレーニングセンターに滞在し、23日にノルウェー・オスロに移動する。近年ノルウェーは世界トップレベルを維持し続けている国であり、非常にタフな試合が予想されるが、1月のアジア選手権に向けて着実に歩みを進めたい日本は立ち止まる事なく、このまま強化を進めていきたい。

【彗星ジャパン欧州遠征 第3戦 10月24日】

日本代表 26 (14 - 10、12 - 16) 26 ノルウェー代表 B

得点者：杉岡1点、部井久1点、徳田(新)5点、渡部4点、土井4点、信太1点、玉川1点、吉野5点、東江4点

前日にヘルシンキからノルウェーに移動をしてきて迎えた対ノルウェー代表B第1戦目。ヨーロッパ選手権2020の自国開催も控えているノルウェー代表Bチームは、ドイツ・ブンデスリーガを筆頭にデンマーク、スウェーデンそして自国ノルウェーリーグで活躍する精鋭を集めたチーム。選手の年齢層も、過去に世界選手権の2度の銀メダルを獲得し、長い間ノルウェー代表として活躍しているベテランのEspen Lie Hansen (LB) や、同じく過去の世界選手権銀メダリストで長年ブンデスリーガ(Hannover)でも活躍していたJoakim Hykkerud (PV)。更には1月に行われた世界選手権ドイツ・デンマーク大会で銀メダルを獲得し、鮮烈なデビューをした19歳の新鋭Alexander Blonz (LW)。同じく銀メダリストで現在ブンデスリーガのGWD Mindenで活躍中のKevin Gulliksen (RW)などが顔を揃えた。

日本はGKに岩下、東江をトップDF、笠原をセンターDF、2枚目DFに渡部と吉野、1枚目DFに徳田と土井を配置した「5-1DF」でゲームスタート。攻撃はプレーメーカーに東江、徳田と吉野がバックコート、渡部と土井がサイド、ポストに笠原。攻守で交代する選手を無くし、ノルウェーの強烈な速攻に対して素早いバックチェックを可能にした布陣で臨んだ。

試合開始、相手コンビネーションからサイドシュートが決まり試合スタート。先制点を許してしまう。攻撃ではシュート場面を創出するも相手GKの好セーブにより先制点が決まらない。前半5分過ぎにコンビネーションプレーから土井がミドルシュートを決めてノルウェー遠征チーム初得点。東江も速攻からランニングシュートを決めるなどしてノルウェーに引き離されない。その後、相手ミスから東江の速攻やコンビネーションプレーから得た7mTのチャンスを徳田(新)が決めるなどして逆転に成功。速攻から信太が玉川に素晴らしいアシストパスを通し、それを玉川が確実に決めてノルウェーを引き離していく。その間も岩下が好セーブでピンチを防ぐなどして相手にペースを掴ませない。渡部や土井の速攻などで着実に加点し、前半終盤にかけて退場者を出すも、その後の攻撃で土井がサイドシュートを着実に決めるなどして点差をキープする。渡部から土井へのスカイプレーも決まり、14対10の4点リードで前半戦を折り返す。ハーフタイムでは相手DFの弱点を突いた効果的な攻撃について共通理解を図り、また、バックチェックの方法についても再度チーム全体で確認を行った。

後半開始、ノルウェーのコンビネーションから1対1の状況を創出され失点を喫す。チャンピオンズリーグでも好調をキープしているAalborg(デンマーク)所属のMishels Liabaの巧みなリードからチャンスを作られ、徐々に点差を縮められる。しかし、日本も徳田(新)のディスタンスシュートやDFと連携した岩下の好セーブもあり、2点差以上の反撃は許さない。それでも、個人技を駆使したノルウェーのオフenseに対し、組織で守り抜きたい日本は後半15分にディフェンスシステムを「6-0DF」に変更。一進一退の攻防が続く。後半24分、日本はDFの際、経験値の高い相手ラインプレーヤー(Joakim Hykkerud)のオフenseに対して退場者を出してしまう。一人少ない状態で、オフense時のテクニカルミスも発生し、1点差まで点差を縮められてしまうも、岩下の好セーブで同点を許さない。その後、さらに不運な退場もあり、後半残り2分で7mTを決められ同点を許す。日本はタイムアウトを請求し、オフenseで意思統一を図りコンビネーションから得点を狙うも部井久のシュートは相手GKにセーブされてしまう。残り1分、日本は相手のテクニカルミスで得たチャンスを、この試合で効果的であったコンビネーションから得点し1点リードする。残り30秒、数的不利の状態が続く日本はKevin Gulliksen(GWD Minden)にサイドシュートを決められ再び同点。残り15秒、最後の攻撃に逆転の望みを繋げた日本であったが、吉野のディスタンスシュートがGKにセーブされ試合終了。同点で試合を終えた。

欧州トップクラブで活躍する選手を揃えたノルウェーに対し、戦前はタフな試合が予想されたものの、これまでのトレーニングの成果が発揮された試合内容であった。また、多くの選手が出場機会を得て貴重な経験を積むことができた。前半4点リードで折り返すものの、後半残り2分で同点に追いつかれ、その後逆転のチャンスを

生かせなかったことに課題は残るものの、明後日にはもう一度ノルウェーとの再戦が予定されている。この試合を良く分析し、残された時間を有効に使いながら最終戦に繋げていきたい。この試合の MVP には好セーブが光った岩下が選出された。

【彗星ジャパン欧州遠征 第4戦 10月26日】

日本代表 28 (14 - 13、14 - 20) 33 ノルウェー代表 B

得点者:柴山1点、酒井1点、杉岡1点、北詰1点、徳田(新)2点、渡部1点、土井2点、信太2点、吉野8点、東江7点、徳田(廉)2点

第1戦目と戦術を変えて臨んだ第2戦。ゲーム前には、前半、ゲームのテンポを意図的に落とし、世界選手権銀メダリストの両サイド (Alexander Blonz・Kevin Gulliksen) を中心に速攻を得意とするノルウェー相手にペースを相手に合わせず、日本主導でゲームコントロールする事を確認して試合を迎えた。

日本は GK に久保を起用。東江をトップ DF、笠原をセンター DF、2枚目 DF に渡部と吉野、1枚目 DF にはこの日柴山が入り、一方には土井を配置した「5-1DF」でゲームスタート。攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、柴山と土井がサイド、ポストに笠原。攻守で交代する選手は無く、ノルウェーの速攻に対して素早いバックチェックで対抗する。試合開始立ち上がり、相手の3次速攻からの個人技で早々に失点を喫してしまうも、渡部の個人技で直後に追い付き、相手にペースを渡さない。その後は、当初のゲームプラン通り、攻撃時に多くの時間を使いながら、速攻を仕掛ける時と仕掛けない時の意思統一を明確にし、ゲームを上手くコントロールしていく。土井のテクニックを駆使したサイドシュート、吉野のディスタンスシュートなどで加点する。また、この日、日本代表デビューの徳田(廉)が初得点を決めてチームも盛り上がりを見せる。徳田(廉)は前半だけで2得点を決めた。前半終了間際にはタイムアウト明けの7人攻撃が成功し、結局、前半は14対13の1点リードで折り返す。

後半、日本は今遠征の中で、なかなか出場機会に恵まれなかった選手を中心にメンバー構成をして臨む。フレッシュな勢いをコートに持ち込みたい日本であったが、ノルウェーのゲームメーカー Mishels Liaba (Aalborg) やベテラン Espen Lie Hansen (Drammen) の巧みなリードから連続失点を喫してしまう。対する日本も、北詰、信太、杉岡らが多彩な攻撃から反撃を試みるも、DF に綻びを見せはじめてしまい相手の得点を止めることが出来ない。また、オフェンスでも勝負所でテクニカルミスが発生。更には相手 GK の Robin Paulsen Haug (Skjern) の好セーブにより得点が伸び悩む時間帯を迎え、そのまま試合は終了し28対33の5点差での敗退となった。なお、この試合の MVP にはこの日、主に前半のみの出場ながら8得点を挙げた吉野が選出された。

欧州トップクラブで活躍する選手を揃えたノルウェーに対し2戦1分1敗と、トレーニングの成果が現れたシーンも多く見受けられたが、逆に多くの課題も垣間見えた2連戦であった。その中でも、先に述べたように徳田(廉)が代表デビューを果たすなど、フィンランド・ノルウェー遠征を通じて、その他多くの代表選手が強豪国相手に出場機会を得て貴重な国際経験を積み、選手層も更に厚くなったと感じている。この試合を持って欧州遠征を終え帰国の途に着くが、1月にアジア選手権を控えた今、大変充実感に溢れた欧州遠征4連戦となった。

所感

最後に、遠征期間中、日本国内外において我々日本代表を応援して下さったファンの皆様、シーズン中にも関わらず、各チームの活動予定を調整していただき選手を快く派遣していただいた所属チームの関係者の皆様、遠征まで様々な場面で日本代表をサポートしていただいたスポンサーの皆様、更には、日本代表活動をご支援いただいた関係する全ての皆様にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。取り急ぎ甚だ簡単ではありますが、以上今遠征のご報告とさせていただきます。大変お世話になりました。有難うございました。

2019 男子ナショナルチーム フィンランド・ノルウェー遠征 帯同メディカル報告

帯同ドクター 沖本信和 帯同トレーナー 飯田純一郎 事柴壮武

男子ナショナルチームは、10/15ANTC に集合し、ウェイトトレーニングとメンタルトレーニングを行った翌日早朝便にて成田からフィンランド・ヘルシンキに到着した。メンタルトレーニングを定期的に行ってきたことが、最近接戦をものにできていることに大きく寄与していると感じている。インフルエンザ対策の意味でも、移動時にはマスクを使用した。乗り継ぎの無い移動は、練習時間の確保の意味で有効だった。

10/16 より連日、練習と試合を行った。フィンランド代表と2試合対戦、ノルウェーB代表と2試合対戦した。10/27 ヘルシンキ経由で成田に帰国した。

アンチドーピングについては、東京オリンピックを控えて、居場所確認、抜き打ちドーピング検査が行われることが多くなっている。昨年末のスイス遠征では、突然、ホテルで抜き打ちドーピング検査が行われた。今回は検査が無かったが、いつ、いかなる時でも正しい対応ができるようにチームで携帯電話などのSNSで連絡を確認した。サプリメント・薬剤に関しても、個々の選手と相談して、必ず、SNSに画像を取り込んで、逐次、連絡相談することを再確認した。代表クラスの選手達は、正確な知識を持っているものの、今後もチームドクターやトレーナーとの気軽な報告連絡相談を心掛けて行きたい。東京オリンピックに向けてドーピングコントロールは競技外でも多く行われることが予想されるために、今回のような遠征・強化合宿にもドクター帯同が必須であると再認識した。

メディカルチェックは個々の選手に毎日行った。以前からトレーナーよりコレクティブなエクササイズを指導してきた結果、外傷障害の発生が減少傾向に向かいつつある。連日、練習やゲーム時にはテーピングを行い、傷害予防に努めた。ケアを実施し、物理療法を含めコンディショニングを行った。

本遠征中に重篤な外傷疾病は生じなかったことは幸いであった。通常の打撲、捻挫、擦過傷などであった。数名の選手に関節内注射やトリガー注射などの処置を行った。抗生剤、消炎鎮痛剤内服、外用剤の投与が数名であった。生活環境は充実していた。選手個々に所属チームに帰る際に、かかりつけ医療機関やチーム関係者あてに紹介状や、現在かかえている障害に対し今後の治療方針などについて説明や依頼、処置や注射、投薬などを行った。アジア選手権、東京オリンピックに向けて、全日本男子ハンドボール代表チームが皆様の期待に応えられる様に、チームとして苦勞を乗り越えて明るい結果と未来を切り開くように精進したいと考えます。

あなたの元気を本来につなぐ
Wakunaga

**元気、やる気、
笑顔、湧く。**



キョーレオピン
KYOLEOPIN
LIQUID

《販売名》
キョーレオピンw

**滋養強壯
虚弱体質**

第3類医薬品



レオピン
ファイブ

《販売名》
レオピンファイブw



 **湧永製薬株式会社**
http://www.wakunaga.co.jp/

お取扱店のお問い合わせ **0120-39-0971**
(通話料無料) 受付時間 9:00~12:00・13:00~17:00 (土日祝日を除く)

さらに
軽く。

※当社、従来品 (TTH543) との比較



FLYTEFOAMを搭載し、軽量性も追求したスタビリティモデル

BLAST FF

1071A002 / SIZE: 25.0~29.0・30.0cm 本体価格: ¥12,800+税



001
BLACK/SHOCKING ORANGE



412
ILLUSION BLUE/HAZARD GREEN



600
SAMBA/BLACK

高松宮記念杯男子62回女子55回 全日本学生ハンドボール選手権

筑波大学は、
14年振り4回目の優勝！
大阪体育大学は、
7年連続8回目の優勝！

開催期間：2019年11月8日～11月12日
開催地：宮城県・宮城郡利府町、仙台市
会場：セキスイハイムスーパーアリーナ（グランディ・21）、カメイアリーナ仙台（仙台市体育館）、元気フィールド仙台（宮城野体育館）



写真提供：スポーツイベント社

男子

最終順位

優勝：筑波大学
準優勝：日本体育大学
3位：法政大学
中央大学

個人表彰

優秀選手賞

平尾 克己（筑波大）
矢野 世人（筑波大）
藤川 翔太（筑波大）
川上 勝太（日体大）
中村 光（日体大）
山本 晃大（法政大）
山川 慎太郎（中央大）

特別賞

大橋 要（日体大）
保利 憲之朗（中央大）

優秀監督賞

藤本 元（筑波大）

女子

最終順位

優勝：大阪体育大学
準優勝：筑波大学
3位：東海大学
東京女子体育大学

個人表彰

優秀選手賞

榎 和奏（大体大）
相澤 菜月（大体大）
秋山 静香（大体大）
尾辻 素乃子（大体大）
中山 佳穂（大体大）
小林 紗加（筑波大）
初見 実椰子（東女体）

特別賞

グレイ クレア フランシス（筑波大）
安藤 かよこ（東海大）

優秀監督賞

楠本 繁生（大体大）

高松宮記念杯 男子第 62 回・女子第 55 回 令和元年度 全日本学生ハンドボール選手権大会総評

本大会は、東日本大震災に見舞われた平成 23 年の開催から 8 年のサイクルを経て令和元年 11 月、再び東北学連の主管で行うこととなりました。会場は宮城県利府町にある総合運動公園（グランディ・21）内のセキスイハイムスーパーアリーナをメインに、仙台市内にあるカメイアリーナ仙台、および元気フィールド仙台を使用しました。

11 月 7 日の開会式は、グランディ・21 のメインアリーナに男女各 32 チーム、総勢千数百名の選手が一堂に会し盛大に執り行われました。昨年、男女アベック優勝を果たした大阪体育大学から高松宮記念杯、優勝旗などの返還を受けた後、地元・東北学生連盟所属チームの代表による選手宣誓が行われました。男子は富士大学主将の富樫侑也選手、女子は東北福祉大学主将の芦名桜選手です。8 年半前の東日本大震災の痛手とそこからの復興について、また全国から寄せられた支援への感謝などが表され、大変に感銘を受けるものでした。

翌 11 月 8 日から行われた試合は、初日から波乱含みとなりました。開幕を飾る第一試合では男子の第一シードで西日本インカレ優勝の福岡大学が接戦の末、敗退。地元代表の男子・秋田大学、富士大学も初日にして早くも姿を消し、翌日の二回戦では、東海王者の名城大学が 1 点差で涙のみました。他方、関東王者の日本体育大学は早稲田大学との接戦をものにし、明治大学も大阪経済大学との今大会唯一の延長戦を制してベスト 8 に進出しました。

一方、女子はシードチームがいずれも盤石。戦前の下馬評そのままにベスト 8 が出揃うかたち。地元代表は 2 チームが初戦を突破しましたが、富士大学が 2 回戦で惜敗し、東北勢の戦いはここで終わりを迎えました。

準決勝は、男女 8 チーム中 7 チームまでが関東学連所属という状況のなかで、6 連覇中の女子・大阪体育大学の戦いぶりはまさに圧巻でした。準決勝では関東 2 位の東海大学を終始圧倒、危なげなく決勝へコマを進めました。これに対し筑波大学と東京女子体育大学との試合は予断を許さない今大会屈指の接戦でした。延長戦も視野に入りつつあった最終盤に一歩抜け出したのは筑波大学。関東王者を下して決勝戦へ名乗りを上げました。

男子の 4 強はすべて関東勢。初戦で西日本インカレ 1 位の福岡大学をくだし勢いに乗る筑波大学と秋の関東リーグで 2 位の法政大学の試合は、一進一退の展開のなか、強靱な DF によってリズムを掴んだ筑波大学が勝利。第二試合は秋のリーグ戦で 1 点差の接戦を演じた関東 1 位の日本体育大学と同じく 3 位の中央大学。出だして流れを掴んだ日本体育大学が終始リードを保つ展開に。中央大学は終盤に 1 点差まで詰め寄り意地を見せるも反撃及ばず、日本体育大学に凱歌があげられました。

女子決勝は 7 連覇を目指す大阪体育大学と 11 年ぶりの奪冠を狙う筑波大学の対戦。序盤からギアを上げる大阪体育大学は前半 18 分までに 14 対 4 と圧倒。対する筑波大学もハーフタイムを挟んでそれぞれ 3 連続得点を挙げて追いつがるも、点差を縮めるまでには至らず 32 対 19 でタイムアップ。大阪体育大学の強さが際立つ偉業達成の瞬間を迎えました。

男子の決勝は前日までの勢いをそのままに筑波大学が主導権を握る展開となりました。前半 16 分で抜け出すと前半終了までにリードを 5 点差まで拡大。しかし後半は一転して日本体育大学が逆襲、10 分過ぎから GK の好セーブにお家芸の速攻を絡めて一気呵成の 5 連続得点。息詰まるような緊迫感の中で迎えた最終盤では、両チームの気迫を体現するような力強い DF が応酬されるなか、筑波大学 1 点リードの残り 2 秒、日本体育大学の懸命のロングシュートは、しかしゴールに届かず熱戦に幕が下るされました。

今大会は全体を通して、男女とも接戦が多く、見応えのあるものでした。土日には高校生を中心に多くの観客にお越し頂きました。メイン会場が交通不便であったことで観戦をご予定だった皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。最寄り駅からシャトルバスの運行を実施し、3 日間で計 100 名程度の乗車がありました。この点では若干の貢献ができたものと思っております。また、販売用プログラムが 3 会場とも 2 日目で完売したことは想定外のことでした。

全国より派遣された大会・競技役員はもとより、とりわけ地元宮城県協会の教員を中心とする審判・競技役員の方々の協力が無ければ今大会のような観客を魅了する競技の運営はあり得なかったでしょう。ここに記して感謝申し上げます。

文責：東北学生ハンドボール連盟 理事一同





写真提供：スポーツイベント社

【男子優勝】筑波大学

筑波大学男子ハンドボール部主将 山田 暁央

『超選手主体的なチーム』としてようやく『日本一』を手にすることができました。

このチームの特徴は、部として理念の中で、選手が主体となりチームを形成している事です。その中で今年は『大学ハンドボール界が目指したくなるチーム』をビジョンとして掲げ、『日本一』を目標としてスタートさせました。

今年度は関東春季リーグを優勝しましたが、夏から秋にかけて選手同士でぶつかり合う事があり、秋季リーグは6位という結果に終わりました。そこでの問題点は『自分の感情を表に出さないこと・言いたい事を溜め込んでしまいマイナスな思考になっていること』などコミュニケーション不足の部分でした。そこに対して選手一人一人がビジョンや目標が何かを再認識し、殻を破り秋季リーグ途中から修正をし始め、インカレに向けて方向づけをすることができてきました。その中で選手一人一人が学年関係なく主体性を意識することで選手同士で練習前に前日の練習などから反省点を共有するなど監督・コーチの指示がなくてもチームをより良くしようと取り組むようになりました。インカレ中では前日のミーティングで選手が相手に対してのOF、DFのプラン立てをし、それを監督、コーチに提示するよう形になっていました。その結果選手達が不満や迷いなくプレーすることができ5試合通してチームが日々成長していきながら勝ち進むことができました。また、プレーの事だけではなく、選手だけでSNSを使って広報活動や、寝る間を惜しんで5つのモチベーションビデオ作りをすること、対戦相手へのスカウティングを行うなど試合に出られない人がチームのために何ができるかを考えて行動することができ一人一人が役割を全うすることができたため、優勝という最高の形で終えることができたと思います。

しかし、このように『超選手主体のチーム』を作ることができるのは藤本監督をはじめ、コーチ・スタッフの方々からの道を外れないような的確なサポート、また、ADの支援があることで健全な活動を行える環境が整っていることのおかげだということを再認識しました。本当に感謝の気持ちで一杯です。応援ありがとうございました。



写真提供：スポーツイベント社



写真提供：スポーツイベント社

【女子優勝】大阪体育大学

大阪体育大学女子ハンドボール部 秋山 静香

台風19号の影響により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。そのような中、高松宮記念杯男子第62回・女子第55回全日本学生選手権大会を無事終えることができ、多大なるご支援、ご協力を戴きました関係者の方々に心より感謝申し上げます。

今年は、1年生が12名加わり、47名で新チームが始動しました。インカレ優勝という目標を掲げ、「誰が試合に出場してもレベルの高いプレーができるよう選手層を厚くする」という意識のもとチームを作ってきました。しかし、春季リーグ・西日本インカレ・秋季リーグでは優勝したものの決して満足いく内容ではありませんでした。また、カテゴリーに選出され主力選手不在という状況や怪我人が多く出たこともあり、チーム内の雰囲気も良いものとはいえ、このまま目標が達成できるのかと不安が募っていました。

しかし、インカレ7連覇に挑戦することができるのは、先輩方がここまで勝ってきて来られたからこそです。そのため、「自分達は7連覇ではなく、常に挑戦者としての気持ちを持って試合に臨むことが大事」と楠本先生から教えていただきました。

そして迎えたインカレでは、会場の雰囲気にも飲まれることなく、初戦から自分達の実力を発揮することができました。その中でも、特に自分達が力をいれていたDF力や速攻が武器となりました。また、勝ち進んでいく中で、チームとしてどうあるべきか、1人1人の行動や態度が常に周りから見られていることを自覚し、より一層気を引き締めて試合に臨みました。

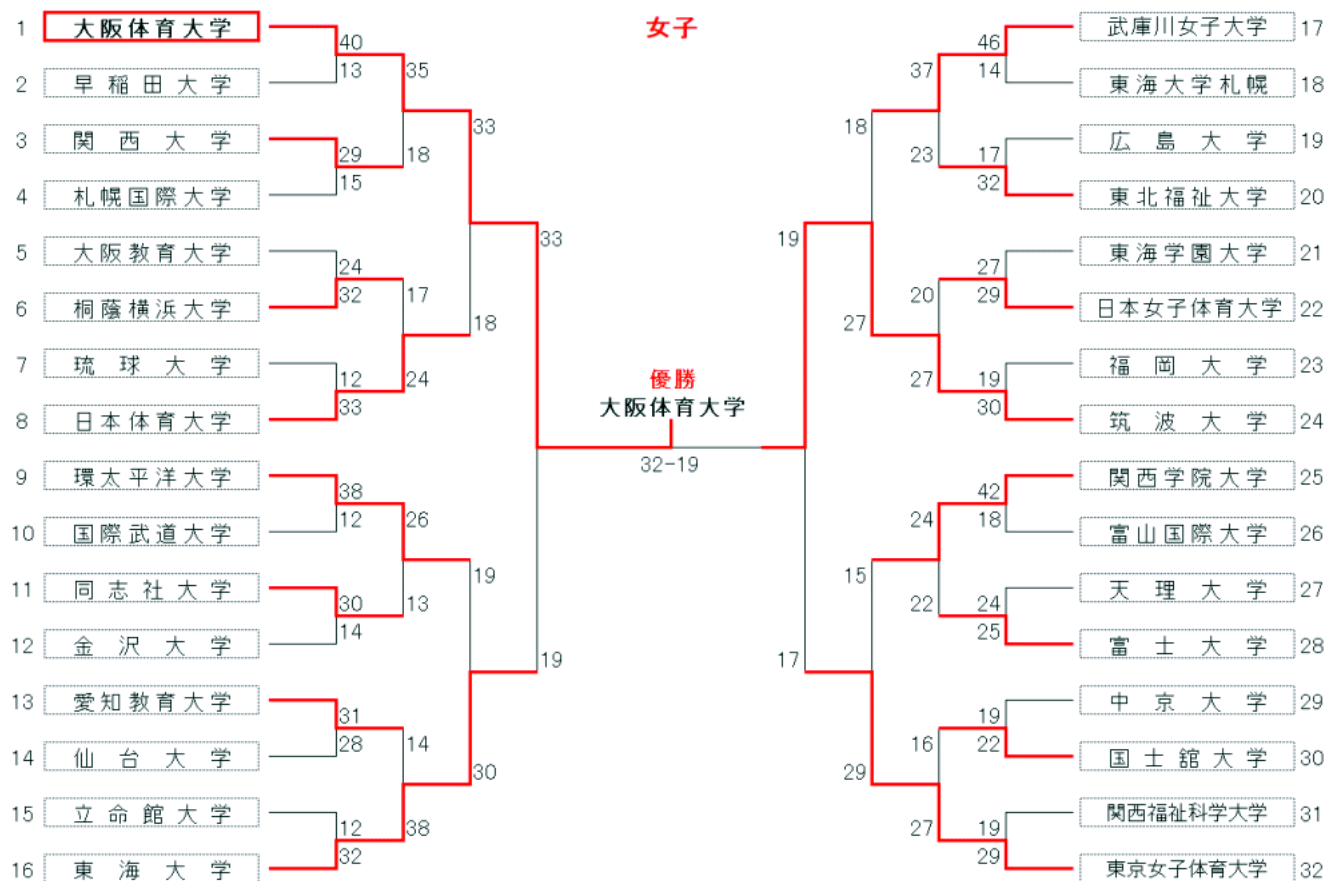
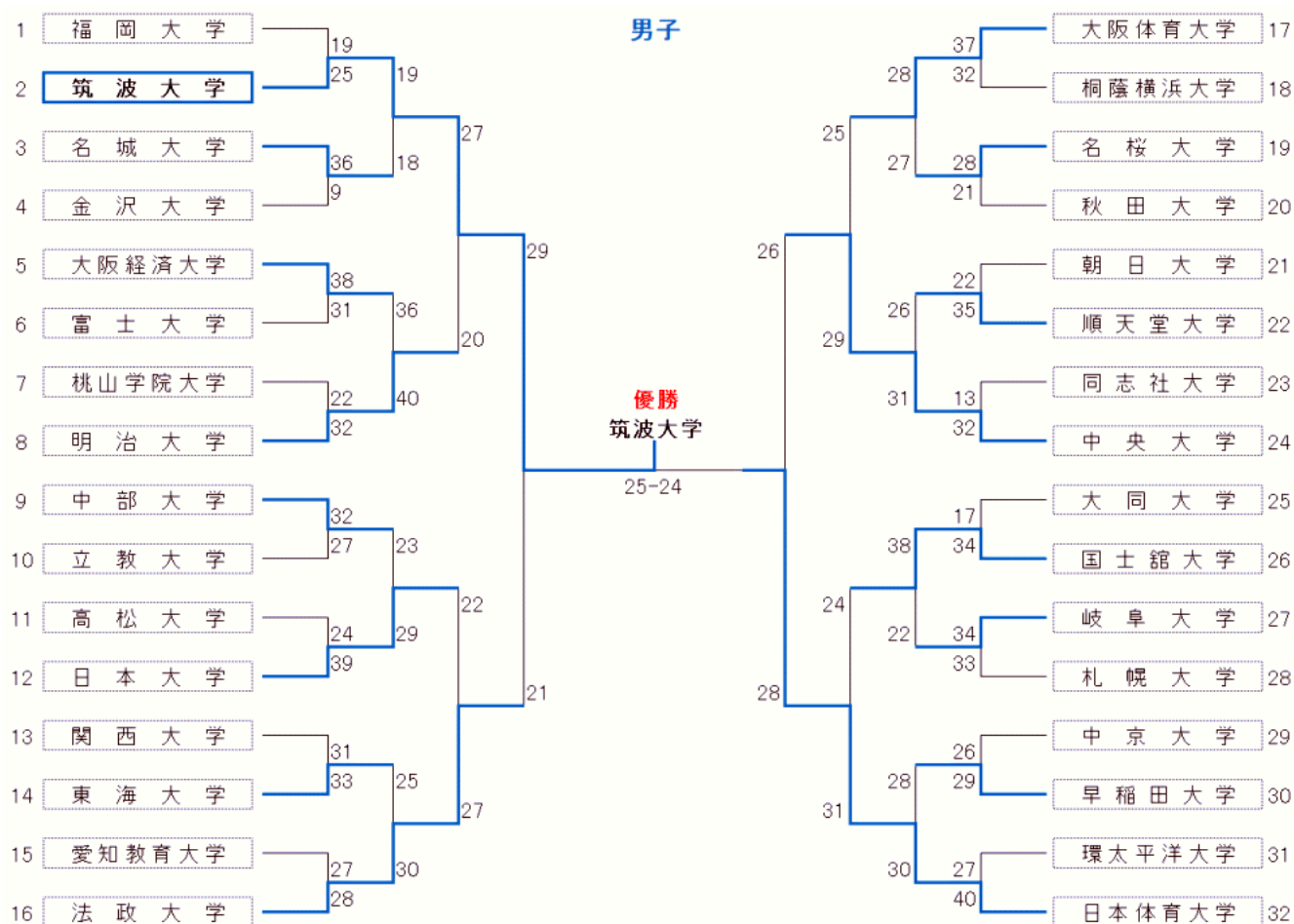
決勝の筑波戦でも、それまでの試合と同様、前半から今まで練習してきた成果を発揮し、大体大らしい試合運びができました。そして、自分達の目標であった7連覇を達成することができ、納得のいく形で大会を終えることができました。このような結果を残せたのも、真剣に自分達と向き合い、熱い指導を下さった楠本先生をはじめ、トレーニングや体のケアをして下さったチームスタッフの方々、これまでの体大の歴史を築いて来られた先輩方、大学関係者の方々のおかげであります。そして、どんな時でも支えてくれた家族には心から感謝の気持ちでいっぱいです。

今後もおごることなく、新たな気持ちで日々の練習に取り組み、更なる高みを目指していきたいと思っております。ありがとうございました。



写真提供：スポーツイベント社

高松宮記念杯男子62回女子55回全日本学生ハンドボール選手権



2020東京オリンピック出場12カ国【男子】

4カ国が決定、残りは8枠 (2019年10月末現在)

	日程	開催国	枠数	出場権獲得
開催国	2013年9月	-	1	日本
2019世界選手権	2019年1月	デンマーク・ドイツ	1	デンマーク
欧州選手権	2020年1月	オーストリア・ノルウェー・デンマーク	1	
アジア予選	2019年10月	カタール	1	バーレーン
アフリカ選手権	2020年1月	チュニジア	1	
パンアメリカン大会	2019年7月	ペルー	1	アルゼンチン
世界最終予選	2020年4月	フランス	2	
		ドイツ	2	
		ノルウェー	2	
計			12	



アジア予選優勝のバーレーン



好評発売中

ハンドボールスキルアップシリーズ

目からウロコのDF戦術

スポーツイベント・ハンドボール編集部 編著

B5判 188ページ 1,800円+税 発行元 グローバル教育出版

バックプレーヤー、サイドプレーヤー、ポストプレーヤー。ポジションごとに求められるものは大きく変わります。コートプレーヤーの3ポジションについて、本書ではそれぞれの役割、求められる能力などをわかりやすく解説しています。

既刊



目からウロコのDF戦術
1,800円+税

株式会社スポーツイベント TEL:03-3253-5941 ご注文はオンラインショップから→<http://sportsevent.shop-pro.jp/>



第17回日本車椅子ハンドボール競技大会



湧永会長 祝辞



湧永会長 車椅子ハンド体験

開催期間：2019年11月9日～11月10日

開催地：徳島県・鳴門市

会場：大塚スポーツパーク アミノバリューホール

最終順位

優勝：大阪体育大学 APES-P（大阪府）

準優勝：すわる〜ず（大阪府）

3位：ほいっちゃあず（大阪府）

4位：大阪体育大学 APES-A（大阪府）



APES-P 坂東選手

文部科学大臣杯第17回日本車椅子ハンドボール競技大会

『大阪体育大学 APES-P』が初栄冠！

一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟

江川 達郎 古川 沙夜

文部科学大臣杯第17回日本車椅子ハンドボール競技大会が、2019年11月9日・10日に徳島県鳴門市にある鳴門・大塚スポーツパーク内アミノバリューホールで行われた。同会場での開催が5回目となる今大会には、競技の部14チーム、フレンドリーの部（ジュニア）3チーム、オープン参加1チームの計18チームが出場した。

「すわる〜ず」が3連覇を果たすか、それともこれまでに13回の優勝を誇る「Team 宮城」が優勝に振り返るか、あるいは前回ベスト4の「大阪体育大学 APES-A」か「ドリーマーズ」が初優勝となるか期待が高まる中、大会の幕が開かれた。予選リーグは、「大阪体育大学 APES-A」が開幕戦を制するも、「ドリーマーズ」が新参加の「ほいっちゃあず」に敗れる波乱の幕開けとなった。「Team 宮城」「ドリーマーズ」とともに決勝トーナメント進出を逃す中、藍野大学と大阪体育大学の学生を中心に若さ溢れる試合が行われ、結局、「大阪体育大学 APES-P」が初優勝を果たした。準優勝は「すわる〜ず」、3位は「ほいっちゃあず」、4位は「大阪体育大学 APES-A」となり、大阪体育大学の現役生チームと卒業生チームが上位を独占する結果となった。

決勝戦は、「すわる〜ず」のスローオフで始まり、開始から7分頃までに「すわる〜ず」が3点リードと2連覇中の



すわる〜ず 刈谷選手



優勝 APES-P



2位 すわろ〜ず



3位 ほいっチャあず



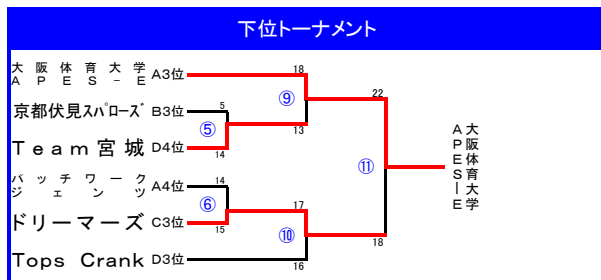
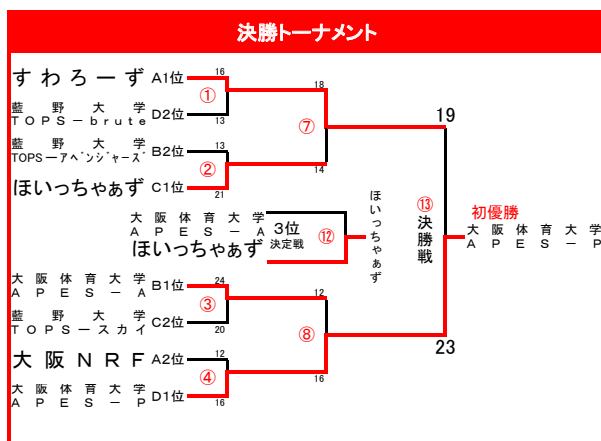
THC Jr. すだち

覇者が貫録を見せる展開となる。刈谷を中心とした攻撃で順調な滑り出しの「すわろ〜ず」であったが、「大阪体育大学 APES-P」のタイムアウト後に流れが変わり、結局9対8の「すわろ〜ず」1点リードで前半終了。後半は、両チームのキーパーの巧みな攻撃参加により一進一退の攻防が続く。残り1分を切り「すわろ〜ず」が1点リードのなか、「大阪体育大学 APES-P」は落ち着いたパス回しから残り15秒で同点。17対17で延長戦へ突入した。延長前半は、ゆっくりとしたスタートとなったが、3分経過後に「すわろ〜ず」のイージーミスから「大阪体育大学 APES-P」が速攻を見せ、この試合で初めての2点差をつける。そしてそのまま「大阪体育大学 APES-P」が20対18の2点リードで延長前半終了。延長後半開始直後に「すわろ〜ず」が1点差に詰め寄せも流れは変わらず、「大阪体育大学 APES-P」が最後は4点差をつけて23対19で熱戦を制し初優勝を果たした。「大阪体育大学 APES-P」のゴールキーパー板東の巧みなゲームコントロールとシュートセンスが光った試合であった。

3位決定戦の「大阪体育大学 APES-A」対「ほいっチャあず」の試合は、「ほいっチャあず」が3点先取して流れに乗り、前半は「ほいっチャあず」が2点リードの9対7で終了。後半に入り、「大阪体育大学 APES-A」は川上の左サイドからの素早い攻撃を中心に追い上げを図るも、「ほいっチャあず」は赤松の高さを生かしたポストプレーで攻撃を組み立てて得点を重ね、最後は21対16で「ほいっチャあず」が3位となった。

フレンドリーの部は、徳島県から「THC Jr. すだち A」と「THC Jr. すだち B」、和歌山県から「岩出ハンドボール教室」の3チームにより行われた。決勝戦は「THC Jr. すだち A」対「岩出ハンドボール教室」で、「THC Jr. すだち A」は濱のミドルシュートで得点を重ねリードを広げる。一方、「岩出ハンドボール教室」は島本が体格を生かした攻撃を見せ前半は6対5で「THC Jr. すだち A」が1点リードし終了。後半は開始直後に「岩出ハンドボール教室」が同点に追いつくも、「THC Jr. すだち A」の勢いが止まらず、最終的には16対9で試合終了し、「THC Jr. すだち A」が見事2連覇を果たした。

今大会では、湧永寛仁会長からご祝辞を頂くとともに、実際に車椅子ハンドボールを体験、観戦され大きな可能性を肌で感じて頂きました。来年の大会は、2019女子ハンドボール世界選手権の開催でハンドボール熱が高まっている九州地区（福岡県北九州市小倉）での初開催に向けて準備を進めており、皆様の大会への参加ならびに観戦を心待ちにしています。また連盟では、普及活動の一環でホームページの更新やYouTube、Instagram、FacebookのSNSも活用し、全国に共生型スポーツの車椅子ハンドボールの輪が広がるように願って活動しています。ぜひとも普及活動にご協力よろしくお願いたします。



日韓スポーツ交流2019男女

男子

派遣：開催期間 2019年9月24日～9月29日
開催地 韓国・済州
受入：開催期間 2019年10月10日～10月15日
開催地 熊本県・山鹿市

女子

派遣：開催期間 2019年9月17日～9月21日
開催地 韓国・済州
受入：開催期間 2019年10月10日～10月15日
開催地 熊本県・山鹿市



男子

役職	名前	ふりがな	所属	
チームリーダー	尾石 智洋	おいし ともひろ	(公財)日本ハンドボール協会	府中市立府中第一中学校
監督	ネメシュロランド	ねめしゅ るーらんど	(公財)日本ハンドボール協会	法政大学
コーチ	山口 修	やまぐち おさむ	(公財)日本ハンドボール協会	高知中央高等学校
トレーナー	篠原 博	しのはら ひろし	(公財)日本ハンドボール協会	宝塚医療大学
通訳	柳 美貞	りゅう みじょん	(公財)日本ハンドボール協会	富山国際大学
サポートスタッフ	松永康宏	まつなが やすひろ	(公財)日本ハンドボール協会	川崎市立高津高等学校

	都道府県	名前	ふりがな	所属	生年月日	学年	身長	特記
2	沖縄県	親泊 寛粹	おやどまり かんすい	興南高等学校	2003.04.07	高1	181	
3	大阪府	土岐 勇斗	とき ゆうと	大阪体育大学浪商高等学校	2003.04.08	高1	181	
4	沖縄県	伊禮 颯雅	いれい そあ	興南高等学校	2003.05.19	高1	177	
5	埼玉県	清黒 瞳太	きよくろ とうた	浦和学院高等学校	2003.05.19	高1	177	左
6	岐阜県	横田 怜	よこた れん	高山西高等学校	2003.05.20	高1	182	
7	富山県	鎌仲 大夢	かまなか ひるむ	高岡向陵高等学校	2003.05.21	高1	170	
9	三重県	栗田 哲太	くりた てった	四日市工業高等学校	2003.06.03	高1	182	
10	富山県	杉本 偲哉	すぎもと しいや	氷見高等学校	2003.06.04	高1	182	
11	大阪府	下川 陽向	しもかわ ひなた	大阪体育大学浪商高等学校	2003.06.14	高1	168	
12	富山県	松下 幸祐	まつした こうすけ	高岡向陵高等学校	2003.09.09	高1	181	GK
13	沖縄県	安里 健伸	あさと けんしん	興南高等学校	2003.06.28	高1	175	左
14	愛知県	後藤 圭汰	ごとう けいた	高知中央高等学校	2003.07.29	高1	183	左
15	愛知県	細野 聖太	ほその しょうた	春日丘高等学校	2003.08.01	高1	181	左
16	鹿児島県	久木崎 匠	くぎざき たくみ	国分高等学校	2003.05.26	高1	177	GK
18	大阪府	安達 圭吾	あだち けいご	大阪体育大学浪商高等学校	2003.9.14	高1	172	
19	山口県	竹下 晴日	たけした はるひ	徳山商工高等学校	2003.07.15	高1	172	

女子

役職	名前	ふりがな	所属	
チームリーダー	尾石 智洋	おいし ともひろ	(公財)日本ハンドボール協会	府中市立府中第一中学校
監督	古橋 幹夫	ふるはし みきお	(公財)日本ハンドボール協会	
コーチ	荒井 啓貴	あらい ひろたか	(公財)日本ハンドボール協会	富谷市立成田中学校
トレーナー	竹内 いずみ	たけうち いずみ	(公財)日本ハンドボール協会	株式会社 T-FUNCTION
通訳	張 素姫	ちゃん そひ	(公財)日本ハンドボール協会	富士大学
サポートスタッフ	鈴木 康信	すずき やすのぶ	(公財)日本ハンドボール協会	フィジカルサポート
総務	原田 悟	はらだ さとる	(公財)日本ハンドボール協会	

	都道府県	名前	ふりがな	所属	生年月日	学年	身長	特記
1	沖縄県	比嘉 楓	ひが かえで	那覇西高等学校	2003.08.27	高1	167	GK
2	三重県	今谷 瑠果	いまたに るか	四日市商業高等学校	2003.04.02	高1	165	
3	愛知県	池 杏菜	いけ あんな	名古屋経済大学市邨高等学校	2003.10.09	高1	167	
4	愛知県	白木 千奈理	しらぎ ちなり	名古屋経済大学市邨高等学校	2003.05.11	高1	172	
5	東京都	吉田 七夕子	よしだ ななこ	佼成学園女子高等学校	2003.07.07	高1	164	
6	東京都	長谷川 真穂	はせがわ まほ	明星高等学校	2003.07.22	高1	166	
7	宮城県	塚邊 美夏	つかべ みな	仙台商業高等学校	2003.08.12	高1	162	左
8	愛知県	杉浦 葵	すぎうら あおい	名古屋経済大学市邨高等学校	2003.10.30	高1	172	左
9	沖縄県	砂川 茉穂	すながわ まほ	那覇西高等学校	2003.11.11	高1	162	左
10	埼玉県	荒井 美咲	あらい みさき	埼玉栄高等学校	2003.11.17	高1	164	
12	愛知県	榎本 美佑	えのもと みう	名古屋経済大学市邨高等学校	2003.12.09	高1	166	GK
13	東京都	叶谷 紅名	かなたに くれな	白梅学園高等学校	2004.01.23	高1	165	左
14	福岡県	外口 若奈	ほかぐち わかな	筑紫女学園高等学校	2004.01.23	高1	169	左
15	石川県	高来 葵美	たかぎ あいみ	小松商業高等学校	2004.03.08	高1	165	
16	熊本県	作本 夕莉	さくもと ゆうり	玉名市立玉名中学校	2004.05.16	中3	175	GK
17	沖縄県	名嘉 陽菜	なか はるな	沖縄市立美東中学校	2004.05.16	中3	168	

チームリーダー 尾石 智洋

2019 女子世界選手権を迎える直前に熊本県にて、韓国代表チームを受入れ U16 日韓スポーツ交流を行わせていただきました。今年度は特に、社会情勢の変化に伴い韓国との交流を心配する声も上がりました。安全面を第一に考え企画運営を行いました。保護者と所属チームの方々のご協力のもと情報発信経路を確立し、円滑な連絡体制のもと活動しました。

このような情勢の中「スポーツを通じた国際交流は、国際競技力の向上など、我が国におけるスポーツの普及・発展に寄与することはもとより、諸外国との相互理解と友好親善の促進を図る手段として、極めて重要な意義を持つ」（文部科学省）ことを改めて選手とスタッフとも共有し活動しました。その成果として、今回の交流によりハンドボールの競技力向上はもとより、韓国とのスタッフとの友好関係をさらに深めることが出来、選手同士も若さ溢れる交流にて友好関係を築くことができ、人間力の向上の場となりました。

今後のハンドボール界の最大の課題として、どのようにジュニアの育成を行っていくのかだと思います。現在、日本国内で世界選手権とオリンピックを迎えるにあたり、若者たちへの更なる環境を次年度以降も考えることが出来たらと切に思います。

最後になりましたが、熊本県ハンドボール協会の奥園理事長をはじめとする関係者の方々に大変感謝申し上げます。今後とも U16 の活動に対しましてご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

男子報告 男子 U16 監督 ネメシュ ローランド

本年度の日韓交流は、訪韓が済州島、受け入れは熊本県で行われました。両国ハンドボール協会、熊本県ハンドボール協会の皆様には大変お世話になり、感謝申し上げます。

また、長期にわたり派遣していただきました所属チームの関係者及び保護者の皆様にも感謝申し上げます。

日韓交流に参加する世代の課題である個の育成を目的し、本年度も昨年同様に韓国に勝つためのチーム作りより、将来的に求められる人間力とハンドボール競技における指導を行いました。人間力を向上していく中で、意思と責任を持って、自律して行動することを目指しました。ハンドボール競技において、フィジカルトレーニング・自分自身のコンディショニングについて指導と実践を行いました。数多くの選手はハンドボールプレーよりも大切な筋力、体力が不足し、腰や肩や膝を大きな怪我ではありませんが痛めています。

また、ハンドボールプレーについて戦術的・技術的指導を行いました。そして更に、プレーの局面に関係なく、判断力向上が最優先目標にしました。現代のハンドボールにて最も大事になってきている数的有利の場面におけるオフenseと数的不利のディフェンスを練習しました。



戦術：2枚目の高い位置までの牽制を生かす、チェンジが少ないスペイン式6:0ディフェンスシステムを練習しました。セット攻撃においてポストとの2:2をベースに適切な位置取り、動くタイミングとテンポ変化と共に、7人攻撃を練習しました。

そして、片手キャッチとバックパス技術の必要性を理解・向上させることを目指しました。昨年同様、チームを2つ作り選手全員にできるだけ均等にゲームに出場させることで個人の育成を狙っていきました。

訪韓では韓国と合同練習として毎回速攻練習を行い、唯一の試合形式練習では、選手たちの意見を取り入れながら、チーム作りを行いました。メンバーを2チームに分け、得失点と関係なく、前半も後半も約12.5分程度全員プレーできました。前半にて通常の6人攻撃、後半の25分間において常に7人攻撃を行いました。韓国のディフェンスシステムは3:3と6:0であり、3:3に対する攻撃が選手の一部にとってかなり問題であり、ミスが増加する原因として考えられます。そのミスからの逆速攻と韓国のアウト側へのカットインを守れず、前半はリードを許しました。後半において、ディフェンスの改善もでき、7人攻撃成功率も高く、優位に立つことが出来ました。

熊本ではメンバー変更と怪我のため、3:2:1ディフェンスシステムも導入し、尚且つ3:3ディフェンスに対する攻撃も練習しました。交流試合前にメンバー全員でまとまった練習がなかなかできない環境ではありましたが、韓国で経験したディフェンスやオフェンスの問題を解決できました。前半のノーマークシュートミスと大差でリードした時の集中力低下以外は、全員の成長を見せてもらいました。今後の更なる飛躍を期待しています。

女子報告 女子U16監督 古橋 幹夫

本年度の日韓交流は、訪韓が済州島、受け入れは熊本県で行われました。両国ハンドボール協会、熊本県ハンドボール協会の皆様には大変お世話になり、感謝申し上げます。

また、長期にわたり派遣していただきました所属チームの関係者及び保護者の皆様にも感謝申し上げます。

さて、本年度のチームの特徴は機動力があることに加え、コンタクトに強い選手が多いということです。その特徴を生かすため、よく動くディフェンスと速攻を武器にチームを組織していきました。昨年同様、チームを2つ作り選手全員にできるだけ均等にゲームに出場させることで個人の育成を狙っていきました。中には自信のない選手もいましたが、ポジションを任される責任から人一倍、努力をする選手も出てきました。

韓国チームは普通のディフェンスシステムでは自動的に体が動く状態に時間をかけて作り上げていることから、ディフェンスシステムは6-0でありながら韓国フェイントを2人で挟んで守り、常にウィングディフェンスが1対2の駆け引きが必要になる形を練習しました。オフェンスはポジションチェンジを使い、一人ひとりがシュートを狙う中で状況判断をするシステムで、思い切りの良いシュートを引き出すことを狙いました。

訪韓では韓国チームの展開の速い攻撃に翻弄され、最後の試合では前半で8対16と大差をつけられました。後半にはディフェンスからの速攻で1点差まで追いつきましたがあまく逃げられ2点差で負けました。

熊本では訪韓の反省からセンタープレーヤーと右バック・ピヴォットを徹底して守ることをコンセプトにより高い6-0に挑戦しました。最後の試合では前半、ピヴォットへのパスを守りきれず14対14。後半は途中3点差をつけられる苦しい場面でようやくピヴォットへのパスをカットできようになり、速攻を中心に追い上げ引き分けに持ち込むことができま

多彩なフィールドで、フロンティアを目指しています。

大同特殊鋼の素材は、暮らしや産業を支える多彩な製品や部品に使われています。
私たちはこれからも、素材の力で新たな価値創造に貢献していきます。

DAIDO STEEL GROUP
Beyond the Special



外からは見えませんが、骨のある会社です。

 大同特殊鋼



した。

日韓交流を終えて、韓国チームとの差はオフenseのフットワークとラテラルパス等を駆使したパスワークが大きいと思います。日本チームは速攻などの機動力はあるものの、個人技術においては『わかっているが試合の中ではできない』プレーが多く、今後の大きな課題であると思います。特にフェイントからのパスのタイミング、ピヴォットへのパスの技術に差があると思われます。このようなことは選手も肌で感じているので、必ず今後活かしてくれることと期待しています。ありがとうございました。

U16 日韓交流サポートスタッフ発掘育成運営専門委員 鈴木 康信

今回、日韓スポーツ交流熊本大会に運営スタッフとして参加させて頂きました。運営スタッフとしての仕事は大会全体のスケジュール管理・調整から練習・試合会場の確保、選手・スタッフの宿泊・食事・交通費計算と様々あります。韓国との事前のスケジュールなどの詳細な連絡は、韓国協会スタッフと日本協会から依頼した通訳の柳美貞さん（富山国際大学）を通じて行いました。日韓両チームの選手・スタッフ男女約90名の宿泊や食事を手配し、また開催時には練習・試合会場までの移動手段の調整や飲料水の買い出し等を行いました。会場の確保・準備に関しましては熊本県ハンドボール協会の方々にご協力をいただきました。ご存知の通り熊本県では11月30日より女子世界選手権が開催されます。そのため日韓交流試合では、世界選手権同様のオープニングセレモニーを行っていただき、入場から国歌斉唱、選手紹介、MCと演出して盛り上げていただき、選手・スタッフ一同、最高の環境で試合をすることが出来ました。このように、私たち運営スタッフの仕事は選手・スタッフがより良い環境で練習や試合を行うためにサポートすることです。今年度より、発掘育成運営委員会が組織され、運営スタッフを増やしている状況ですが、まだまだ足りていません。今後、このような裏方として選手をサポートしていく人材を確保することも重要な課題となると思います。

日本ハンドボール協会、韓国ハンドボール協会をはじめ熊本県ハンドボール協会には日韓スポーツ交流熊本大会にご協力いただき、無事に開催できたことを改めて報告致します。また地元、和水体育館、鹿本体育館、オムロンハンドボール部には準備から片付けまで多大なるご協力をいただきました。開催に際し、ご協力いただいたすべての方々に対して、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

なんだか、家族が楽しい、1日です。



知らなかった「かわいい」や「おいしい」に出会える1日。家族ってまるで探検隊だ。

株式会社イズミ 検索 <https://www.izumi.co.jp>

本社 〒732-8555 広島市東区二葉の里三丁目3番1号 TEL 082-264-3211 (代)



you me

熊本通信



2019女子ハンドボール世界選手権大会 いよいよ開幕！

2019女子ハンドボール世界選手権大会 会場アクセス情報

Access Information

おりひめライナー情報

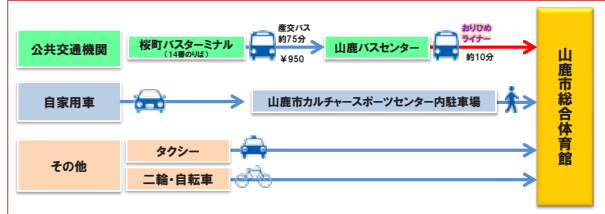
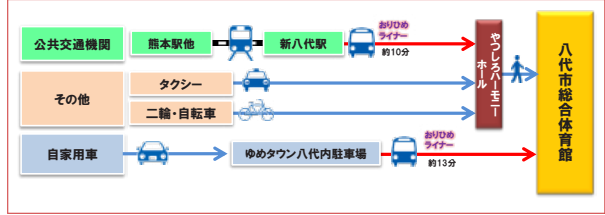
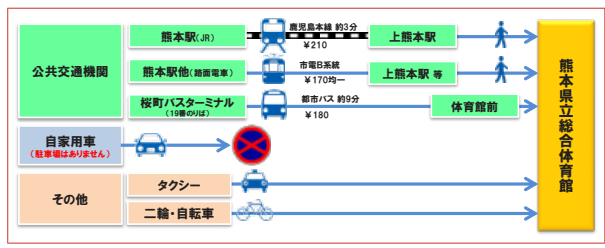
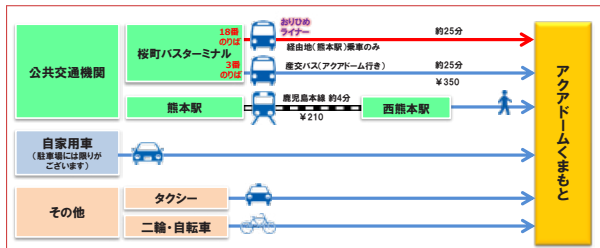
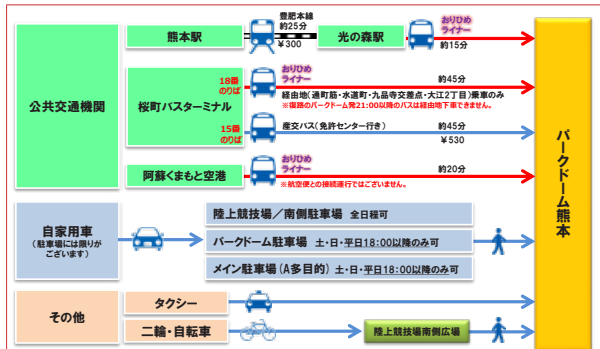
試合開催日に運行！

おりひめライナー

おりひめライナーとは、交通拠点と各会場を結ぶ無料の観戦用臨時バスです。
なお、桜町バスターミナル発のパークドーム行き、アクアドーム行きバスが満車の場合は、同一系統の路線バス(有料)をご利用ください。



会場別アクセス方法



※おりひめライナー以外の公共交通機関のダイヤについては、各会社のホームページ等で確認のうえご利用ください。
※大規模イベント(11月30日)以降で会場を移設されている方はお問い合わせください。
※会場アクセスについては、状況に応じて変更することがあります。最新情報は大会ホームページでご確認ください。

【女子ハンドボール世界選手権大会ホームページ】 | 時刻表はこちら | お問い合わせはこちら
<https://japanhandball2019.com/>
<https://japanhandball2019.com/access/>
 TEL:096-333-2585 (熊本国際スポーツ大会推進事務局 宿泊輸送課) 受付時間/平日8:30~17:15

熊本城 特別公開

2019/10/5(SAT)~

Kumamoto Castle's Grand Unveiling

未来への幕開け ~復興へ向かう勇姿を公開~

熊本城は2016年4月に発生した熊本地震で大きな被害を受けました。皆様からの多くの支援を受けて、2019年10月、いよいよ特別公開を迎えます。復旧へ向かう熊本城の勇姿をぜひご覧ください。

熊本城の最新情報はこちらをご覧ください
[熊本城オフィシャルサイト \(熊本城\)](https://kumamoto-guide.jp/kumamoto-castle/)
<https://kumamoto-guide.jp/>

このころに来るね、熊本城
 KUMAMOTO HEART
 【熊本市の観光情報はこちらをご覧ください】
<https://kumamoto-guide.jp/>

2019/10/5(土)~ 第1弾 熊本城 特別公開

公開日 2019年10月5日~ (日曜・祝日限定)

公開時間 9:00~17:00

※ラダビワールドカップ(10月5日~12日)及び女子ハンドボール世界選手権(11月30日~12月14日)開催期間中は土曜日も公開します。
 ※10月5日から14日は「熊本城大天守再建記念公開」として、平日も公開(公開時間13:00~17:00、平日の公開エリアは平安門丸までとなります)。
 ※天守閣の内部にはお入りいただけません。

2019年10月							2019年11月							2019年12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
6	7	8	9	10	11	12	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
13	14	15	16	17	18	19	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
20	21	22	23	24	25	26	24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				
27	28	29	30	31																

● 9:00~17:00の公開予定 ○ 13:00~17:00の公開予定 ※10月5日はオープンシティイベント終了後の公開予定です。 ※2020年1月以降は日曜・祝日の公開予定です。

2020年春 第2弾 特別見学通路開通

○平日も観覧できるようになります。
 ○二階の石室、軍竹の丸の重要文化財修繕、再建・復元建築物などの竣工後の状態や復旧工事の状況をご覧いただけます。

2021年春 天守閣内部公開

○天守閣全体の復旧が完了し、天守閣の内部まで入れるようになります。

応援と一緒に

山鹿の魅力を楽しもう!!

山鹿市は豊前街道を中心に栄えた宿場町。歴史ある商家が軒を連ねる街道筋には、風情ある町並みが続き、あちこちに寄り道したり、のんびりと休憩しながら散策することができます。市内には伝統的な老舗からレトロでおしゃれなカフェなど、多くの飲食店があります。歴史を感じながら料理やお酒を楽しめるのも山鹿の魅力です。くわしくは山鹿探訪ナビへ <https://yamaga-tanbou.jp/>



山鹿には、豊かな自然と個性あふれる人々が生み出した、絶品ご当地グルメが盛りだくさん。思う存分味わってください!



明治時代に建てられた芝居小屋「八千代座」、時を越えて蘇った「さくら湯」などの歴史スポットや、体験スポットもいっぱい!



八千代座

明治43年、山鹿の実業家「目黒亮」の尽力によって建てられた「八千代座」。ドイツ製のレールを使った廻り舞台や新築・花道など充実した機能を持ち、江戸時代の芝居小屋の様式を今に伝えています。明治・大正の熱気や、観客たちのざわめきが感じられるようです。

さくら湯

今から約380年前に誕生した「さくら湯」。当初は薩川藩の御茶屋として、明治以降は市民温泉へと姿を変え、山鹿市街に変遷してきました。一部が壊れながらも取り壊されましたが、平成24年に復活。やわらかな湯と、歴史が薫り出す濃厚な雰囲気を楽しむことができます。

菊鹿ワイナリー

菊鹿ワイナリーは、2018年に新しくオープンしたワイナリーです。葡萄刈り産ブドウで造った葡萄ワインはもちろん、醸造所に隣接する観光施設「アトリッジ」では、山鹿の果物のジェラートや緑茶などが販売されています。

【八代市総合体育館】

八代市のスポーツ拠点となる施設。日常的なスポーツ活動はもちろん、大規模なスポーツ大会にも対応。



◀八代市の見所▶

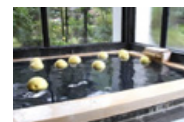
九州のほぼ中央に位置する八代市は、古くから文化や経済の中心として発展してきました。堀と石垣に昔日の風情を残す城下町、600年の歴史を秘めてたたずむ日奈久温泉。満々と水をたたえ八代海へ注ぐ球磨川、山深き平家落人伝説の里五家荘。異国情緒あふれる時代絵巻八代妙見祭。全国の花火師が集うやつしろ全国花火競技大会。歴史の薫り、文化の彩り、交流の賑わい、八代には、いろいろな素顔があります。豊かな自然と風土につつまれた「やつしろ」を訪れてみませんか?



◀今が、旬▶

◀晩白柚 (ばんぺいゆ) ▶

ギネスブックに認定された世界最大の柑橘類。八代を代表する果物。とてもさわやかな香りをはなち、その実は果肉だけではなく、皮もお菓子などに使われます。重さは約2g、直径は20cmを超える。収穫時期は12月~2月。日奈久温泉では、12月中旬~1月にかけて、晩白柚を湯船に浮かべる「晩白柚風呂」が楽しめます。



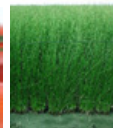
生産量日本一!



晩白柚



トマト



い草

2019年度第2回理事会報告

2019年11月16日開催

審議事項

- 1: 特任理事の委嘱について — 承認
*荻本将勝氏: 特命担当 (ハンドボール成長推進本部、2020 東京オリパラ PJ など)
- 2: 参事の委嘱について — 承認
*業務執行理事の補佐として、参事 26 名を委嘱
- 3: 2019 年度 JOC 強化指定選手推薦者 (2019 年度第 3 四半期) について — 承認
- 4: 第 24 回女子世界選手権暫定登録及び大会登録メンバーについて — 承認
- 4: 第 19 回アジア選手権派遣メンバー選出について — 承認
*強化本部に一任
- 5: 名誉役員 (名誉会長・顧問) の役員登録料について — 承認
- 6: 第 68 回日本スポーツ大賞 (読売新聞社制定) 推進について — 承認
*大阪体育大学女子ハンドボール部を推薦
- 7: 2019 年度第二次補正収支予算書 (案) について — 承認

報告事項

- 1: 各本部よりの報告 (強化本部、競技本部、広報マーケティング本部)
- 2: 熊本女子世界選手権 PJ からの報告
- 3: 日本ビーチハンドボール連盟設立について